

# 平成 29 年度 事業計画書

《自平成 29 年 4 月 1 日～至平成 30 年 3 月 31 日》

公益財団法人 電気科学技術奨励会

## 【 事業計画 】

本公益財団法人の平成 29 年度の事業計画としては、次の諸事業を予定している。

- (1) 「第 65 回電気科学技術奨励賞」の贈呈
  - (2) 平成 29 年度電気科学技術奨励学生賞の贈呈
  - (3) 第 56 回電気科学技術講演会の開催
  - (4) 国内外の研究者、技術者との交流
  - (5) ホームページの充実による積極的な情報発信
- 各論は、以下の通りである。

### 1. 「第 65 回電気科学技術奨励賞」の贈呈

「第 65 回電気科学技術奨励賞」については、電気科学技術の分野において優れた業績をあげ、今後更に顕著な研究成果が期待される研究者・技術者を顕彰するために賞状並びに奨励助成金及び記念楯を贈呈する。

なお、推薦候補者の募集・選考については、研究者、技術者の意欲の向上に寄与し、更なる電気科学技術の発展に資することを目的として、電気科学技術に関する広範な分野において研究・技術開発に携わる方々を産業界、大学・工業高専、公設試験研究機関等の団体を対象として広く公募し、公平、公正かつ厳正な審査により授賞者を選考していく。最近の傾向としては、大学、工業高専等の教育関係者のうち、とりわけ工業高専からは教育関係のみならず技術関係の応募も多くなっている。しかしながら、大学からの応募が少ないのが現状である。局面打開のため、案内状による直接の呼びかけ、更にホームページを活用した情報の発信など、より充実した広報活動に取り組む。門戸を広く開放し英語、中国語、韓国語版での呼びかけ等の積極的な情報発信により受賞候補者推薦公募を精力的に行う。

また、平成 23 年度から研究開発における技術情報の重要性が増大していることに鑑み、各学会からのインダストリアルペーパー（実務家の経験・ノウハウを分析・分類し、体系化して共有化することを目的とするペーパー）の論文執筆者は奨励賞に該当するとの判断から、各学会から推薦された場合は審査の対象とすることとした。過去には、一般社団法人 情報処理学会からの推薦候補(平成 26 年度)がこれに該当するものであり、この時は授賞作として採択された。

## 2. 電気科学技術奨励学生賞の顕彰(賞状と研究助成金)

平成 21 年度より次世代を担う優秀な大学院生・大学生を対象として、わが国で開催される国際会議等への参加費を助成して、国際化に対応した若い研究者・技術者の人材育成にささやかながら資することとしている。

近年、わが国で開催される学会の国際会議は増加傾向にあり、大学院生・大学生の意識も変化し、指導教員等の尽力と併せて参加者も増加している。しかしながら、国際会議への参加費は、学生にとっては大きな負担となることを踏まえ、有為な研究者・技術者を育成する観点から、当公益法人との係わりのある電気科学技術関係の主要な学会(電気学会、電子情報通信学会、情報処理学会、映像情報メディア学会、照明学会等、以上敬称略)の理解と協力の下、内外を問わず優れた論文発表を行った学生を顕彰するため、賞状及び研究助成金を贈呈するものである。

具体的には、電気科学技術関係の主要な学会が国内で開催する国際会議において、公募して論文発表に応じた国内及び海外の大学院生・大学生を対象に、当該学会の論文委員会等の協力を得て、毎年 10 名程度を上限に優秀者を選考し、公益財団法人 電気科学技術奨励会会長名の賞状と研究助成金を贈呈する。本年もどの国際会議を対象とするか選考中である。

ちなみに、平成 21 年度の第 1 回から平成 28 年度の第 9 回までに表彰した地域と人数は、海外 14 か国 23 名、国内大学 34 名、表彰者計 57 名(平成 29 年 3 月末現在)となっている。

## 3. 「第 56 回電気科学技術講演会」の開催

「電気科学技術講演会」は、文部科学省主催の科学技術週間参加行事の一環として実施している。本年度の「第 56 回電気科学技術講演会」は、4 月 19 日(水)に東京・牛込筆筈区民ホール(東京都新宿区)にて開催する。講演会の入場料は無料で一般の人を含め全国から 350 名程度の聴講者を目標として広く参加を呼びかける。

本事業については、従前通り、文部科学省、一般社団法人 電気学会、公益社団法人 日本電気技術者協会、株式会社 オーム社の後援、協力を得るとともに、公益財団法人日本科学技術振興財団の協賛を戴く。

第 56 回の講演会は、演題を『IoT 時代の産業・社会インフラの取組みの現状と期待』とし開催するが、各講師と演目は別添パンフレットの通りである。

## 4. 国内外の研究者、技術者との交流

海外の研究者や技術者の来日の機会を捉え、国内外の研究者、技術者との交流を図る努力をしている。現状では、電気科学技術奨励学生賞の授賞式に参加の学生及び指導教員との交流が主になっている。

国内外の研究者・技術者の交流は、ホームページで公開し、学生賞受賞者等の交流は、授賞式当日のバンケット等に対応することとしている。バンケット等での贈賞が不可能な場合は、各学会内で贈賞を行うこととし、密度の濃い交流にしている。

#### 5. ホームページの充実による積極的な情報発信

遅ればせながら平成28年11月1日を期して、当法人独自のホームページを開設した。

日常活動の報告はもとより、電気科学技術奨励賞受賞者との交流、大学・高専との情報交換、講演会参加者への情報提供である。これからは特に企業、各団体との交流に意を尽くして行きたい。また、文部科学省傘下の科学技術団体連合(関連団体100団体)の会員としても交流を頻繁に進め、公益法人としての主旨を全うして行きたい。

以 上